

昭和二十一年二月

外交資料

日米交渉記録ノ部

外務省編纂

(昭和十六年二月ヨリ十二月マデ)

日米交渉資料(一) 第二次近衛内閣時代 頁六一——六二

五月十七日獨逸政府發在京獨逸大使宛訓令

(五月十七日松岡大臣「オット」在京獨逸大使會談ノ際同大使持參)

獨逸政府ハ米國ノ參戰ヲ抑制スル最良ノ方法ハ日本カ米國ノ提案ニ就キ
交渉スルヲ斷乎拒否セララルニ在リタルヘシトノ見解ナリ、獨逸政府ハ
日本政府カ米國政府ニ回答セララル以前獨逸政府ノ意見ヲ待タレサリシ
ヲ遺憾トス。三國條約ハ昨年獨伊日三國ノ政治的・道德的結合トシテ締結
セラレ其ノ大目標ハ第三國ノ戰爭參加ヲ阻止スルニ在リタリ。
本條約ハ從來右ノ目的ヲ達シタルモノニシテ將來モ亦若シ日獨伊三國ノ
統一戰線カ緊密ニ維持セララルニ於テハ其ノ效果ヲ發揮スヘシ三國條約

締約國ノ一國カ三國條約外ノ第三國ト結フ條約ハ線テ三國條約國ノ戰線ノ弱化ト解セラルヘク斯クテ本條約ノ政治的効果ヲ減殺スヘシ。

若シ日本政府カ夫レニモ拘ラス日米關係ニ關シ米國政府トノ交渉ヲ避ケ得ストサルニ於テハ米國ハ事實上（國際法上ノ意味ニ於テハ然ラストスルモノ）樞軸國ノ敵國ナルカ故ニ上述ノ不利益ナル效果發生ヲ少クトモ豫メ不可能トスルコト必要ナリ

故ニ英國ト樞軸國トノ戰爭ニ干涉セサル米國政府ノ義務（從來規定セラレタルヨリモ更ニ著シク明白ナル形式ニ於テ）及ヒ三國條約ヨリ生スル日本ノ義務ヲ明白且分明ニ確定スルコトカ日米協約ノ根本點トナサルヲ要シ而モ右根本點ニ爾餘ノ規定カスヘテ依存セシメラルヲ要スヘシ此ノ事情ノ下ニ於テハ形式化ノ問題カ最重要ノ意味ヲ有スルコトナルヘシ。

日本ノ回答ノ第二項ニ於テ三國條約ヨリ生スル日本ノ義務ノ存續ニ關シ述ヘラレアル點ハ元來日米協約中ニ於テ右ニ關シ言及サルヲ要スル絶對最少限ヲ表ハシ居ルモノニシテ此ノ最少限ヲ逸脱スルコト或ハ弱化スルコトハ事態ヲ顛落ノ方ニ導クヘク其ノ結果トシテ三國條約ノ精

神ト意味ニ予盾スルニ到ルヘク遂ニ三國條約ヲ幻影化ナスヘシ。
獨逸政府ハ今ヤ日米間ノ交渉ニ完全ニ參與シ米國ノ回答ニ付テ直ニ通報
ヲ與ヘラレ度シトノ希望ヲ主張セサルヲ得ス日本政府カ豫メ獨逸政府ト
右重要問題ノ凡テニ關シ了解ヲ遂ケスシテ米國ノ通報ヲ聞カレ向後日本
ノ地位ヲ確定サルルコトハ三國條約ノ關係ニ適合セサルモノナリ。

文書ノ出所竝ニ成立ニ關スル證明書

(三號)

自分、林馨ハ外務省文書課長ノ職ニ居ル者ナル處、茲ニ添付セラレタル日本語ニ依ツテ書カレ三頁ヨリ成ル五月十七日獨逸政府發在京獨逸大使宛訓令ト題スル書類ハ日本政府（外務省）ノ保管ニ係ル公文書ノ拔萃ノ正確ニシテ眞實ナル寫シナルコトヲ證明ス

昭和二十二年五月二十一日 於東京

林

馨

石署名捺印ハ自分ノ面前ニ於テ爲サレタリ

同日 於 同 所

立會人 浦 部 勝 馬